



●提案：国際版色彩関連図書一覧作成

本誌 382,383,384 号で、日本色彩学会会員による著書の一覧表があり、容易に閲覧できれば、学会員にとって、幾分かのメリットがあるのではないかと考え、日高会員などの助力もあり、エクセルデータの形で作成して、色彩教材研究会の主査宛に研究会の共有データとして公表して欲しい旨のお願いをした。

更に、日本色彩学会として内容を充実する作業を加えて、学会員全体が利用できるように働きかけて欲しいとのお願いもした。

色彩学研究のため、色彩教育のため、色彩教材作成のため、先人の色彩関連の図書の重要性は、説明するまでもない。

最近では、本屋さんの数も全国的に減少し、本はネット販売による時代となり、そのための検索資料が必須になっていくと考えられるので、学会活動の一環として取上げて欲しい。

さらに国際的に拡大して、各国語の色彩関連図書も、国際色彩学会 (AIC) にも働きかけて日本色彩学会でリスト化していただければ、本学会の評価も高まると考えられる。

それらが充実してゆき、将来は、世界各国語の色彩関連書籍が集められた図書館が、日本のどこかに出現するという夢を見たいと思う。
(永田泰弘)

言葉凸凹 無機顔料と有機顔料

合成顔料は、無機物と有機物の定義にしたがって、無機顔料と有機顔料に大別される。

無機顔料は金属元素と酸素や硫黄、セレンなどの非金属元素からなる化合物を粉末化したもので、多くの無機顔料が、耐光性、耐熱性、耐溶剤性、隠蔽力などにすぐれ、古い歴史を持っているが、金属元素等を含むために、健康被害や環境汚染などの弊害のために、使用が規制されているものが多い。

水銀、鉛、カドミウム、ヒ素などを含む化合物は塗料や印刷インキ、プラスチック用着色剤などの顔料として使用できない。

現在、大量に使われている無機顔料はチタン白、弁柄、黄色酸化鉄、ウルトラマリンブルー、コバルトブルー、鉄黒などである。

有機顔料は、炭素、水素、酸素、窒素などを含む有機化合物で、鮮やかな色をもつ化合物である。その用途は、印刷インキ、塗料用顔料、プラスチック用着色剤、絵の具類など広範囲にわたる。大別すると、アゾ系顔料、フトロシアニン系顔料、縮合多環式顔料、染料レーキ系顔料などである。

他に、炭素を主成分とするカーボンブラックは黒色顔料としてすべての色材に使用されている。
(永田泰弘)

●万葉集のなかの色 -12

飛驒人の 真木流すとふ 丹生の川

言は通へど 船そ通はぬ (巻7-1173)

飛驒の人が立派な木を流すという丹生の川は、激流だからうわさばかり通って、船が通らないことよ。丹生川(ニウガワ)は朱色の顔料の産地を流れる川の名。

黒牛の海 紅にほふ ももしきの

大宮人し 漁すらしも (巻7-1218)

「黒」牛の海は「紅」にてり映えている。ももしきの立派な大宮人が漁をしているよ。

月草に 衣そ染むる 君がため

まだらの衣 摺らむと 思いて

(巻7-1255)

まず月草で衣を染めることだ。あなたのために色どり美しい衣を摺ろうと思って。

遠くありて 雲居に見ゆる 妹が家

早く至らむ 歩め黒駒

柿本朝臣人麻呂 (巻7-1271)

遠く雲の彼方に見える妻の家に、早く行こう。歩め、黒駒。

君がため 手力疲れ 織りたる衣ぞ

春さらば いかなる色に 摺りてば好けむ

(巻7-1281)

「いかなる色に」は万葉仮名で「何色」と。

* 講談社文庫・中西進・万葉集から (永田泰弘)